

・書籍名、雑誌名は『 』でくくり、論文名は「 」でくくる。

・名詞を並列する場合は、中点（・）を用いる。

・和暦年月日、世紀、年齢、条名、概数以外の数字は、「一〇方式」を用いる。

・編、章、節の順序を表す数字は漢数字とするが、ページの上の「編柱」「章柱」に用いる数字は算用数字（アラビア数字）とする。

大見出しは、「1」「2」のように算用数字を冠する。

・文体は、「である」調を基調とする平易な口語体とし、必要以上の敬語は使用しない。

・団体名、法律名などは、初出のときに正式名称を記し、以後は略記することができる。

和暦年月日、世紀、年齢、条名、概数の数字は、「とんぼ十字方式」を用いる。

第7編 社会

初めて八十歳を超えた。
日本人の平均寿命が男女ともに五十歳を超えたのが戦後の昭和二十二年であったことを顧みれば、（男性五十・〇六歳、女性五十三・〇六歳、厚生労働省「第二〇回生命表」による）、その後わずか半世紀の間に世界に冠たる長寿社会を実現したことは、わが国の保健・医療・衛生・栄養・環境のすべてにわたる改善がいかに実効性の高いものであったかを物語っている。
安平町民の健康状態も、医学の進歩や食生活の向上、保健医療制度の充実、さらには健康維持・増進のための町の各種施策により着実に向上してきた。
図表7-1-1に、平成二十五年における安平町民の平均寿命、健康寿命（健康な期間の平均）、不健康期間を、国・北海道との比較で示した安平町民の平均寿命は、男性七十七・三三歳、女性八十五・五五歳で、男女共に全国及び北海道の平均を下回っている。
長寿社会の実現の一方で、病気で寝たきりになったり、介護を必要とする高齢者も増加傾向をたどってきた。そこで重視されるようになったのが、平成十二年に世界保健機関（WHO）が公表した「健康寿命」である。健康寿命とは、「日常的に介護を必要とせず、自立した生活ができる

第1章 社会福祉

第一章 社会福祉
第一節 高齢者福祉

1 高齢化の現状

平均寿命と健康寿命
この文章は、文字の大きさや行間、レイアウトの全体の印象を見ていただくためのもので、文章内容及び図表内の数値はすべてダミーです。
令和元（二〇一九）年七月に公表された厚生労働省（以下、「厚労省」）の「簡易生命表」によると、平成三十（二〇一八）年における日本人の平均寿命は、女性が八十七・三三歳、男性が八十一・二五歳で、いずれも過去最高を更新し、女性は香港に次ぐ世界第二位、男性は、香港、スイスに次ぐ第三位となっている。前年の平成二十九年との比較では、女性は〇・一六歳、男性は〇・〇六歳伸びており、七年連続の伸びとなった。これまでも日本人の平均寿命は、女性が昭和五十九（一九八四）年に八十歳を超え、昭和六十年から平成二十二年まで二六年間連続で世界第一位であり、男性は、昭和四十六年に七十歳を突破し、平成二十五年に

図表 7-1-1 安平町民の平均寿命・健康寿命・不健康期間（平成 25 年）

区分	平均寿命（歳）		健康寿命（年）		平均寿命に対する健康寿命の割合（％）		不健康期間（年）	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全国	80.21	86.61	78.72	83.37	98.1	96.3	1.49	3.24
北海道	79.91	86.55	78.52	83.45	98.3	96.4	1.39	3.10
安平町	77.33	85.55	75.82	82.34	98.0	96.2	1.51	3.21

資料：ダミーです

・表組の見出し（表組の説明文）は、横組の場合は表組の上に付け、縦組の場合は表組の右に付ける。
・表組の見出しの頭には図表番号を冠する。図表番号は、「編番号」「章番号」「章の中の通し番号」の3つの数字をダッシュ「-」でつないで表記する。
（例）図表7-1-1（これは、第7編の第1章の中の1番目の表であることを示す）
横組の表組における数字は半角算用数字を用い、3桁ごとに「,」を入れる。
（例）765,432,108

・年の表記は原則として和暦を用い、適宜、和暦の後の（ ）内に西暦を付す。この場合、「年」は最後に記す。
・（ ）内に西暦年を付すのは、小見出しを単位とした本文内で初出の場合とする。ただし、年号が変わった場合（ ）内に西暦を付すこととする。
※「昭和●●年代」など、年数が定まらない場合は、西暦を付さないこととする。